

五 国鉄内子線

神戸市の人、曾根正命が資本金二〇〇万円で郡中へ中山へ内子へ大洲へ八幡浜に至る五九・五キロメートルに電車を運転する計画をたてて出願したのは、明治四十三（一九一〇）年のことであった。

しかし、当時鉄道院（現在運輸省）では電気軌道車は、長距離路線には不向きであるという注意を受けたので、軽便鉄道に変更して西予軽便鉄道と称し敷設しようとしたが、大正になって更に愛媛鉄道と改称した。

しかし、資金難のために工事の安易な所から最初大洲と長浜の間一四・六キロメートルを計画して、大正七（一九一八）年二月に開通した。

大洲内子線もこれと平衡して工事が進められ、大正九年五月に開通した。かねて五十崎村では、村会の議決によって町制を実施することを出願中であつたが、ちょうど愛媛鉄道内子線と時を同じくして許可があつたので、大正九年五月二十日には五十崎駅前が開通式を挙行し、二十一日は町制実施祝賀式を市場で挙行した。本町古今未曾有の祝典であつたという記録が残されている。

これより先四国でも、四国循環鉄道予設線の計画があつて海岸線と内山線と何れをとるか論議があつた。中山町、内子町、五十崎町の人々は是非内山線をと希望したが、当時長浜町の出身県会議長（憲政会長老）西村兵太郎が海岸線を主張したため、内山地方の人々は涙をのんだのであつた。

昭和八（一九三三）年十月、愛媛鉄道は一、二〇〇、〇〇〇円で国鉄に買収され、国鉄内子線と改称された。

しかし、海岸線は地盤が軟弱であるために急行列車を運行するには危険であるという見地からその後、内山地方の町村民の希望が入れられて、昭和四十一年度から内山線（二六キロメートル）が着工されている。完成の暁は、距離

的にも安全運転の上からも利する所大なるものがあると思われる。